

八重山諸島や沖縄には迷蝶とよばれる、台風などの影響で一時的に偶発的発生をみるチョウがいて、人によってはそういう情報を得るや否やすっ飛んで行くと聞くが、筆者にはそこまでの価値を迷蝶においてははない。とはいっても、滅多に行けない八重山諸島まで足を運んだとして、もしそのような迷蝶に出会えるとすれば触手は動く。

本種は2001年、与那国島で大発生をして島内のソテツがあちこちで食い荒らされたという情報を得ていたが、その翌年2002年9月に故金子實氏と訪れる機会を得た際にはまったくその姿を見ることはできなかった。そんなわけで本種も迷蝶の一つと位置付けられたわけだが、2007年11月に石垣島の真栄里林道へと足を運んだとき、シロノセンダングサに小さな青いシジミチョウが吸蜜飛来し、よくみるとクロマダラソテツシジミの♂。幼虫時代に十分のソテツにありつけなかったのか、異常ともいえる矮小個体である。



意外なことに本種が同じ2007年9月、兵庫県宝塚市で発見されていて、2008年には一気に近畿地区の全府県、そして三重・和歌山・岡山など本州の多くの地域に生息地が拡大した。おそらく宝塚市で人為的に放蝶されたあと、分布を広げたものと思われる。

この2008年の分布拡大が身近な加古川市志方町にまで及ぶこととなるのは想定外で、加古川の里山・ギフチョウ・ネット代表の竹内隆氏が、自宅近所の志方中学校校庭のソテツで発生していることを確認して情報提供してくれ、早速自転車をふんで観察に行ってみた。部活中の生徒の誰もが見知らぬおじさんであるはずの筆者に対して「こんにちわ」といねいに挨拶してくれる校風に感心しながら、運動場におられた指導教諭の許可を得てソテツのところへと進むと、いきなりメス個体が足元から飛び立ったあと路面で休んだり、小さな黄色い花で蜜を吸ったりしてい



る。ソテツの新芽を調べると、これではこのソテツは丸坊主にされるにちがいないと思わせる卵がびっしり。10個ばかりをいただいて持ち帰り、インゲンマメを与えて飼育をしてきれいな個体の標本作製できたが、その後、中学校でどのような経過をたどったかは未確認。

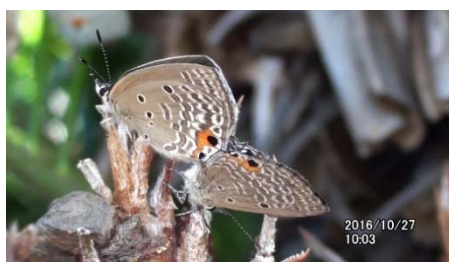
それにしても神戸市浜離宮あたりまで分布が広がっているとまでは聞いていたのに、いきなり加古川までやってくるとは。チョウの食草探知能力のすごさにはあいかわらず驚かされる。さらに驚いた後日談があって、実は筆者の自宅から10mも離れていない近所の庭に、全く気付かなかったソテツがあって、全く同じ時期に無数のチョウが発生してどうしようかと困っていたとのこと。そんなに身近にいたのなら志方中学校までわざわざ自転車を1時間もふむ必要はなかったわけで、本種には驚かせられっぱなしだ。



Nov.21.2008 加古川市志方町産羽化♀

Oct. 27, 2016 和歌山に遠征

和歌山の秋のチョウとの出会いを求めて遠征。田辺市天神崎の海岸道路沿いを歩くうち、水生昆虫を子供たちに紹介するために調査に来たという男性に会い立ち話。そこでクロマダラソテツジミが発生している場所があるよ、と教えてくれる。この場所から遠くないことがわかり、すぐに行ってみてビックリ。3か所にある大きなソテツのいずれものまわりに、遠くからだとヤマトシジミが群れ飛んでいるようにしか見えないチョウが乱舞状態。すべてクロマダラソテツシ



ジミで、交尾ペアもあちこちにみられる。撮影は大きめの幼虫がいる部分だけの記録だが、全体的には若齢幼虫がうじゃうじゃと数え切れない。ソテツのある場所の関係者に断りを入れ、インゲンマメを代用食とする飼育目的で、幼虫がつく新芽を3本だけハサミで切り取らせてもらう。